

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	無	
スポーツ科学部	講師	徳田 真彦			
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
アクティブラーニングを取り入れた授業展開	2016年4月～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉授業とグループワークを盛り込んだ展開 座学においては、一斉授業の中に必ずワークを取り入れ、複数人でワークに取り組み、黒板を使つての発表といった、成果を発表するというような授業展開を行っている。黒板に記載した際には、学生同士質疑応答を行う場合もある。 ・協力して行うグループワークを取り入れる レクリエーションイベントの「企画書を作成する」といった課題を設定し、開催地域の決定、地域の課題探索、イベントの内容、評価方法に至るまで、企画書作成に係る一連の流れをグループワークとして取り組んでいる。企画書の提出・修正および企画内容のプレゼンテーションなどを実践している。 ・実践とフィードバック 実技・演習の科目においては、座学だけではなく実際に学んだ理論や知識を生かし、実践を行うようにしている。座学だけでは理解しきれなかったことも、実体験をすることで学習効果が更に高まるようにしている。また、その際にはただ実践をして終わるのではなく、学生相互のフィードバックを実施し、実践者と参加者相互で学びあえる環境を作ることを意識している。 			
授業改善アンケート調査	2016-2021年	大学で実施している授業改善アンケート調査において、内容理解、授業計画、評価方法、熱意、教授法、コミュニケーション、準備、話し方、資料の明瞭さ、勉強環境、満足度などの項目において、すべて学内平均を上回り、高い評価を得ている(調査が行えた担当科目全て)。			
2 作成した教科書、教材、参考書					
「雪を楽しむ外遊びプログラムスノーゲーム・楽しく安全に遊ぶためのハンドブック」	2018年2月	学校の先生や地域の指導者向けの指導ハンドブック。「スノーゲーム」の中から、グラウンドや広場で手軽にできる運動系アクティビティと共感系アクティビティを選び、それぞれの活動内容や条件、指導ポイントを照会している。本書では、全体構成および、スノーゲームのアクティビティ選択、ルール内容の記載を担当した。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
グループエンカウンター、体験授業等		グループエンカウンター、北海道札幌東稜高等学校、体験授業、ASEプログラムの実践、名寄東中学校、札幌市夏季林間学校、札幌市教育委員会、滝野自然学園、体験授業、ASEプログラムの実践、大曲中学校、体験授業、ASEプログラムの実践、山鼻中学校、出張講義、ASEプログラムの実践、礼文高等学校、出張講義、ASEプログラムの実践、月形高等学校、高校生のための学びの体験セミナー 「チーム力を育てるチームビルディング」、高大連携事業-恵庭南高校「チーム力を育てるチームビルディング」			
II 研究活動					
著書 (単著)					
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月
著書 (共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
コミュニケーション力を育むレクリエーション	西村誠, 津田由加子, 足立哲司, 中川善彦編著 ※第1章1節担当	分担部分: 抽出不可	株式会社実生社		2023年3月
「雪を楽しむ外遊びプログラムスノーゲーム・楽しく安全に遊ぶためのハンドブック」	著者: 青木康太郎、徳田真彦、吉田昌弘、吉田真、竹田唯史	分担部分: 抽出不可	北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター	北海道	2018年2月
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)					
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
中学生に対する地域に根差した自然体験活動が地域愛着の変容および地域愛着と行動意図の関係性に及ぼす影響-南房総学に着目して-	徳田真彦、吉田昌弘、青木康太郎、竹田唯史、吉田真	野外教育研究	27巻	pp25-36	2024年4月
大学野外実習における参加者の社会人基礎力の変容-12大学27実習を対象とした調査から-	徳田真彦、青木康太郎、瀧直也、向後佑香、伊原久美子、福富優、中丸信吾、坂谷充	野外教育研究	27巻	pp37-49	2024年4月

ひとり親家庭支援としてのキャンプの有効性- 母親の子育てレジリエンスと子どものアタッチメントに着目して -	吉松梓、向後佑香、徳田真彦	野外教育研究	27巻	pp13-24	2024年4月	
通年型自然体験事業における幼少期の子どもに対する自然体験活動効果の年間変化	福富優、徳田真彦、赤尾操、中島早穂、池田耀	キャンプ研究	27巻	pp15-25	2024年4月	
「スノーゲームの身体的・心理的効果に関する研究Ⅱ-小学生を対象とした調査の結果から」	徳田真彦、吉田昌弘、青木康太郎、竹田唯史、吉田真	北方圏生涯スポーツ研究センター年報	第8号	pp1-10	2018年3月	
総説						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
実践報告	コロナ禍における海洋スポーツキャンプ実習実施への取り組み	共 徳田、真彦、久田、竜平、伊原、久美子、藤本、淳也、富山、浩三、中山、健、徳山、友	大阪体育大学紀要	52	79-95	2021年3月
実践報告	コロナ禍における大学野外活動実習の実践報告～大阪体育大学の取り組み～	共 徳田真彦、伊原久美子、富山浩三	キャンプ研究	24	47-54	2021年3月
学会発表 (「国際学会」、「国内学会 (一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入)						
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名	
国内(一般演題)	2023年12月	日本生涯スポーツ学会25回大会	学校教育としての自然体験活動における地域愛着構造の質的検討	鹿屋体育大学	徳田真彦	
国内(一般演題)	2022年6月	日本野外教育学会25回大会	中学生に対する自然体験活動が地域愛着および行動意図との関係性に及ぼす影響-南房総学に着目して-	鹿児島大学	徳田真彦	
国内(一般演題)	2021年11月	日本野外教育学会24回大会	自然学校と連携した研究プロジェクト～実践と研究の融合を目指して～	明治大学	徳田真彦	
国内(一般演題)	2020年11月	日本野外教育学会23回大会	コロナ禍における大学野外実習の実施へ向けた取り組み-大阪体育大学の事例-	関西学院大学	徳田真彦	
国内(一般演題)	2019年6月	日本野外教育学会第22回大会	大学野外実習における社会人基礎力の育成要因の検討Ⅱ	仙台大学	徳田真彦	
科学研究費等の取得状況						
科学研究費/その他の助成金/外部資金						
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額(期間内の総額)	
科学研究費	基盤研究C	教育課程における自然体験活動が地域愛着に与える影響	代表	2024～2026	2,800,000	
科学研究費	基盤研究C	高等教育におけるジェネリック・スキルを高める野外教育プログラムの実践	分担	2019～2022	3,770,000	
特許						
特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国
Ⅲ 加入学会および社会における活動						
期 間	内 容					
加入学会						
2018年～2020年	日本福祉文化学会理事					
2012年～現在	日本野外教育学会					
2012年～現在	日本体育学会					
2014年～現在	生涯スポーツ学会					
社会的活動						
2022年6月～現在	Wilderness Education Association Japan 理事					
2019年～2021年6月	Wilderness Education Association Japan 代表理事					
Ⅳ 管理活動						
期 間	内 容					
委員会活動						
2022年～現在	カリキュラム委員会、研究委員会、教務委員会					
特別プロジェクト活動						

V クラブ活動の指導業績				
1. 指導クラブ名	野外活動部	2. 役職	2019年～現在	3. 部員数 20人
4. 現場指導の頻度	② ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 10回	延べ日数： 30日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	③ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				
開催期間	大会名	成績	場所	
VI 賞罰 (職務に関する賞罰)				
年月	受賞等機関名	内容	備考	
2023年12月	日本生涯スポーツ学会	日本生涯スポーツ学会第25回大会若手優秀発表賞		
2022年6月	日本野外教育学会	日本野外教育学会第25回大会若手優秀発表賞		
2019年3月	Japan Outdoor Leaders Award	Japan Outdoor Leaders Award U-30賞		